

新図書館コンセプト

2010年12月28日
茨城大学図書館本館増改築WG

真の教養を身につける多彩な「学びの場」としての大学図書館の構築 —茨城大学発 21世紀型教育の支援と地域社会との共生—

茨城大学図書館は、真の教養を身につけ、激動する21世紀の社会に貢献できる人材を育成する茨城大学の21世紀型教育を実現するため、また、地域社会のニーズに対応した大学図書館の実現のため、新しい図書館に生まれ変わらねばならない。

新しい図書館は、既成の学問分野を横断して新たな知を創出し、優れたコミュニケーション能力を有する人材育成に必要な図書や情報機能を充実させ、本学で学ぶすべての学生に多彩な「学びの場」を提供する。

さらに、博物館機能を備え、市民への図書の貸出とともに、地域社会と共生する大学図書館の新たな役割を具備する。

学生・教職員・市民の「知の共有化」を可能とする施設を構築する。

1. 明るく開放的で充実した学習室

全国の国立大学図書館でも屈指の入館者数を誇る図書館として、学習スペースを現在の2倍にし、全学生の学びをサポートするキャンパス内で最大の「学びの拠点」とする。

2. 開架を基本とした閲覧室

わかりやすい導線を持つ開架を基本とした閲覧室と、100万冊の蔵書を収納するスペースを用意し、学生が資料に接する機会を最大限確保する。

3. PBLスペース

学生が個人またはグループで行なう課題解決型学習であるPBL（Project Based Learning, プロジェクト学習）のためのスペース。

持ち込みパソコンなども利用できる基本的な学習設備を備え、会話が外に漏れないよう遮音された空間を用意する。

4. サイレント・スペース

静謐な閲覧のためのスペース。会話はもちろん、パソコン利用も制限し、個人が集中して学習できる空間を用意する。

5. ラーニングコモンズ

ゼミなどの他、学生が自由に集まり、話し合いながら学習したり、学内での活動の打合せなども可能なように、可動式の机・椅子やIT利用環境を備えた、出入り自由の空間を用意する。

6. 情報収集スペース

電子ジャーナル・データベース・電子図書・視聴覚資料など、電子メディア情報を利用できる情報収集の拠点となる空間。
ネットワークに接続されたパソコンを基本とし、視聴覚資料利用のためのヘッドホンを備える。

7. 展示スペース

図書館所蔵資料の展示のみならず、学生の創作品を展示するとともに、市民との交流の場ともなる空間。博物館的機能を持つことにより、学芸員教育の実施の場所とする。

8. 貴重図書室

茨城大学の資産であるばかりでなく、地域の貴重な財産である古文書や貴重図書を、劣化・破損・汚損などから防ぎ後世に確実に残すために、温湿度管理のできる貴重図書室を用意する。

9. 多目的ホール

セミナー、講演会、シンポジウム、公開講座、情報リテラシー教育など、さまざまな形態での知の交流、地域との共生を積極的に推進するために、100席程度の多目的ホールを用意する。